

【抹茶色(まっちゃいろ)】抹茶のようなやわらかい黄緑色。

抹茶は碾茶(蒸した茶葉を揉まないで乾燥したもの)を細かく挽いた粉末で、茶道の濃茶や薄茶、スイーツの材料としてお馴染み。茶の木はツバキ科の常緑樹で、本来なら高木になり、白い椿のような花を付ける。茶畑では花芽を摘み取ってしまうため、残念ながら花見はできない。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

ステージラボ川崎セッション報告

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ札幌セッション参加者募集 / 第23回地域伝統芸能まつり開催 / 「特別寄稿 ビューポイント view point」No.11掲載について / 令和4年度「リージョナルシアター事業」報告 / 令和4年度「公共ホール邦楽活性化事業」報告 / 令和4年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」報告 / 令和4年度「公立美術館出前(オーダーメイド)型研修事業」開催報告

今月の情報..... 8

地域通信

今月のレポート..... 12

島根県松江市 島根県民会館 しまね県民オペラ2023『ラ・ボエーム』

●ステージラボ川崎セッション

アウトリーチや異ジャンルコラボの企画づくりを学ぶ

ステージラボ 川崎セッション 報告

2023年2月14日～17日



写真

左上: 自主事業コース「アウトリーチをつくるにあたっての基礎知識を得る」

右上: 自主事業コース「グループワーク: マルシェ弦楽四重奏団とアウトリーチを作る」

左下: ホール入門コース「ダンスワークショップ体験」

右下: 共通プログラム「みんなのオルガン」
「ミュゼ川崎シンフォニーホールのパイプオルガン事業見本市」

●コースコーディネーター

◎ホール入門コース

岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

◎自主事業コース

田中玲子(認定NPO法人トリトン・アーツネットワーク エグゼクティブ・プロデューサー/理事)

三浦美弥子(認定NPO法人トリトン・アーツネットワーク ディレクター)

●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 研修担当

Tel. 03-5573-4183

今年度2度目となるステージラボが「音楽のまち・かわさき」の拠点であるミュゼ川崎シンフォニーホール(以下、ミュゼ)で開催されました。開講されたのは、「異ジャンルのコラボレーション」をテーマにしたホール入門コースと、「演奏家と一緒にアウトリーチを企画・試演する」をテーマにした自主事業コースです。また、ミュゼのシンボルであるパイプオルガンを2時間にわたって堪能する共通プログラムも行われました。

●中川賢一のアウトリーチから学ぶ

今回、両コースで組まれていたのが、ピアニストの中川賢一さんが小学生向けに実施しているアウトリーチを体験するゼミです。内容は、《展覧会の絵》「プロムナード」の演奏に始まり、調律師のご協力のもと、調律師の仕事の説明とともに行われたグランドピアノの解体ショー、実際の楽器を触り、アクション模型を使いながらの楽器説明、楽曲解説付きの演奏、そして最後が中川さん渾身の『キエフの大門』という大人も魅了する決定版。演奏家と楽器と音楽のパッションに触れる45分間を終え、活発な質疑が行われました。

自主事業コースの受講生から「どうして演奏からスタートするのか」と問われた中川さんは、「先入観なく、クラシック音楽を素で捉えて欲しいから。ピアノ演奏というのはパーソナルなもので、個人的な考えや哲学を伝えているが、音楽には非常に多様性があるから聴いている人がどうと思わなくても伝わるものがあると思う」と回答。その他にも、「アウトリーチによってクラシックを楽しむ人を増やしたいと思っているだけではない。音楽をツールにして大人の生き方を見せている。ピアノは人間の知恵がたくさん詰まった知的な工芸品であり、調律師という職業の人が必要なこともわかってほしい。音楽は感情的な部分を鼓舞する要素があるのですごく怖い。だからこそ聴きなさいと強制したくはないと考えている」と、アウトリーチの基本的な考え方を伝えていました。

●異ジャンルのコラボレーションの可能性を探る～ホール入門コース

入門コースのコーディネーターは地域創造のリージョナルシアター事業のアドバイザーを務める岩崎正裕さん(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)です。受講生は、初日の岩崎さんによ

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

る演劇の手法を用いたワークショップを皮切りに、中川さんのアウトリーチ、セレノグラフィカ(隅地茉歩、阿比留修一)のダンスワークショップと、演劇、音楽、ダンスという異ジャンルのワークを体験しました。

初めてダンス・ワークショップを体験した受講生は、「(やったことを)否定されなかったし、小さな動きから大きな動きに移っていったのでやりやすかった」「踊れる人、踊れない人のハードルを感じなかった」「内側で感じていたものを表現する楽しさがあった」「考える時間があまりなくてすぐ動きましようというのがやりやすかった」と振り返り。隅地さんは、「誰でもフラットに取り組める、競争することがない場にしたい。ダンスは目的ではなく結果的になるもの。無理にどうこうしようとは思っていない、Too Muchにならないようにしている」など、的確な言葉で説明していました。

また、ゼミ「音楽+ダンス+演劇~コラボの可能性」では、企画づくりにおいて発想がどのように展開していくのかを知るため、この異ジャンルの3人で《展覧会の絵》の企画を公開で考えるブレインストーミングも行われました。《展覧会の絵》には失われた10枚目の絵があった、《展覧会の絵》は高齢者のラブソングだった、ハルトマンとムソルグスキーの対話劇にできるのではないかなど、その発想に触れるだけでワクワクする時間となりました。

●アウトリーチを企画・試演~自主事業コース

自主事業コースのコーディネーターを務めたのは、2001年の開館当初から第一生命ホールを運営してきた認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク(以下、トリトンアーツ)の田中玲子さん(エグゼクティブ・プロデューサー)と三浦美弥子さん(ディレクター)です。コミュニティ活動に力を入れ、中央区・江東区豊洲地区の幼稚園・保育園・小学4年生などを対象に年40回程度のアウトリーチを実施してきました。

今回はトリトンアーツが実施しているアウトリーチ・セミナー(*)の修了生が結成したマル

シェ弦楽四重奏団(内1名客演)が全面協力。受講生は4チームに分かれ、演奏家がひとりずつ加わり、30分のアウトリーチ・プログラムを企画。企画立案からランスルー、試演まで2日間、計12時間でこなすという強行軍でした。受講生たちは事前課題として渡された曲目リスト全14曲とマルシェのアウトリーチのレポートなどを予習し、ワークに臨みました。

デイサービスの利用者とその家族を想定し、家族の中でコミュニケーションが生まれることを目指したチームは、誰もが歌えるように歌詞を張り出し、耳馴染みのある『荒城の月』や『ソーラン節』を中心にプログラム。また、小学校4年生を想定し、弦楽四重奏について知ってもらうことを目指したチームは、楽器や4つの楽器が重なって音楽をつくるプロセスを丁寧に説明。試演後には忌憚のない意見交換も行われました。ランスルーを含め4時間にわたって演奏し続けていただいたマルシェのみなさんには心からお礼申し上げます。

*アウトリーチセミナー
オーディションで選ばれた3名の若手弦楽器奏者が講師の松原勝也さん(ヴァイオリン)と共に弦楽四重奏を組み、プログラムを企画。実際に小学校や幼稚園でのアウトリーチを行い、子どもと音楽の出会いの場を考える実践型セミナー。

ステージラボ川崎セッション プログラム表

	ホール入門コース	自主事業コース
	開講式/オリエンテーション	
2月14日	「演劇ワークショップ体験~グループディスカッション」 岩崎正裕	①「参加者同士打ち解ける」 セレノグラフィカ ②「自主事業としてのアウトリーチ事例を知る」 田中玲子、三浦美弥子
	全体交流会	
2月15日	「ダンスワークショップ体験」 セレノグラフィカ	「アウトリーチをつくるにあたっての基礎知識を得る」中川賢一
	「ダンス+演劇~地域へのアプローチ」 セレノグラフィカ、龍亜希、岩崎正裕	「グループワーク(4グループ): アウトリーチを考える」 田中玲子、三浦美弥子
	共通プログラム: みんなのオルガン「ミュゼ川崎シンフォニーホールのパイプオルガン事業見本市」 大木麻理、佐藤友紀	
2月16日	「音楽ワークショップ体験」 中川賢一	「グループワーク: マルシェ弦楽四重奏団とアウトリーチを作る」 マルシェ弦楽四重奏団
	「音楽+ダンス+演劇~コラボの可能性」 中川賢一、セレノグラフィカ、岩崎正裕	
	「地域と共にある劇場とは~レクチャー&ディスカッション」 龍亜希、岩崎正裕	
2月17日	「発表&振り返り」 龍亜希、岩崎正裕	「リフレクション」 田中玲子、三浦美弥子
	修了式	

財団からのお知らせ

●ステージラボ札幌セッション参加申し込み方法

当財団ホームページから募集要領・申込書類をダウンロードし、必要事項をご記入の上、メールでお申し込みください。

<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html#boshu>

申し込み先: kensyu@jafra.or.jp

●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 研修担当

Tel. 03-5573-4183

◎札幌市民交流プラザ

札幌における多様な文化芸術活動の中心的な拠点であるとともに、市民の仕事や暮らしに関する課題の解決を支援し、それらを通して多くの人が交流する場となることを目標として2018年10月にオープンした複合施設です。国内外の優れた舞台芸術やさまざまな公演を鑑賞できる「札幌文化芸術劇場 hitaru(ヒタル)」(客席数2,302席)、市民の文化芸術活動をサポートし、札幌の文化芸術を支え、育てていく「札幌文化芸術交流センター SCARTS(スカーツ)」、都心に集う人々に仕事や暮らしに役立つ情報を提供する課題解決型図書館「札幌市図書・情報館」の3つの施設で構成されています。3つの機能が連携して相乗効果を生むことにより、多くの交流が生まれ、新たなつながりや発想につながります。3つの施設が協働する取組を行い、市民が気軽に文化芸術に触れ、交流する機会を提供するとともに、創世1.1.1区(そうせいさんく)のにぎわいを創出し、「創造都市さっぽろ」の実現に大きく寄与していくことを目指しています。

指定管理者:公益財団法人札幌市芸術文化財団

●ステージラボ札幌セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等の体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和5年度の前期セッションは、札幌市民交流プラザ(札幌市)にて3コースを開催します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

募集締切:2023年4月25日(火)必着

●ステージラボ札幌セッション概要

[日程] 2023年7月4日(火)~7日(金)

※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ4日(火)~6日(木)

[会場] 札幌市民交流プラザ

(札幌市中央区北1条西1丁目)

[開講コース] ホール入門コース、自主事業コース、公立ホール・劇場マネージャーコース

[定員] 各コース20名程度

[主催] 一般財団法人地域創造

[共催] 札幌市民交流プラザ、札幌市

※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催内容等が変更となる場合がございます。

◎ホール入門コース

【コーディネーター】

荻原康子(上田市交流文化芸術センター 総合プロデューサー)

【対象となる職員の目安】

公共ホール・劇場(開館準備のための組織を含む)において、業務経験年数1年半未満(開館準備のための組織は年数不問)の職員

【コース概要】

そもそも公共ホールや劇場は、地域にとってどんな存在でしょうか。目の前の仕事に突き進んでいく前に、まずは文化政策のアレコレや文化芸術振興の多様な担い手について知り、基礎力を培うことから始めましょう。さまざまな立場で現場に関わる実務家やアーティスト等を交え、参加者の皆さんと「わがまち」を構成する要素を分解しながら、地域と応答する文化施設

のあり方について考えていきます。

◎自主事業コース

【コーディネーター】

仕田佳経(一般財団法人地域創造ディレクター、おんかつコーディネーター)

【対象となる職員の目安】

自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2~3年程度の職員

【コース概要】

事業担当者には地域課題や地域資源に向き合い、アートの力を通して事業を企画していくことが求められています。「堅苦しい」「敷居が高い」などと言われがちなクラシック音楽に焦点を絞り、アーティストと共にクラシック音楽で“遊び”ながら、実際に一つのプログラムをつくり上げていきます。公立文化施設におけるクラシック音楽のあり方や、事業担当者のみならず、地域住民、観客、そしてアーティストも共に育っていきける可能性を皆さんで考えていきましょう。

◎公立ホール・劇場マネージャーコース

【コーディネーター】

吉本光宏(株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事・芸術文化プロジェクト室長)

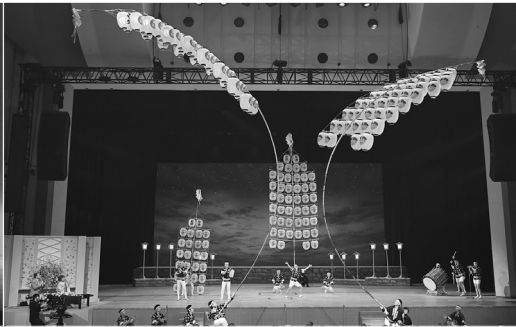
【対象となる職員の目安】

公共ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ職員

【コース概要】

新型コロナは公共劇場・音楽堂の運営に甚大な影響を与えましたが、同時に文化芸術の役割や価値を問い直すきっかけとなりました。地域の抱える課題が複雑化し、人々が将来に不安を感じる中で、公共劇場や音楽堂には何が期待されているのか。昨今重視されるようになった文化芸術の経済的・社会的価値と本質的価値をどのようにとらえるべきか。今一度、地域の文化施設のあるべき姿を見つめ直し、これからの運営や事業について考えます。

●第23回地域伝統芸能まつり開催



各地の地域伝統芸能や古典芸能が一堂に会する「第23回地域伝統芸能まつり」が2月19日、NHKホールで開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により4年ぶりの開催となりましたが、多くの皆様にご来場いただきました。日本の伝統芸能を継承する各地域の保存会等の方々が9演目を披露。また古典芸能も1演目披露され、テーマである「息吹」を感じる伝統芸能の競演に多くの歓声が上がりました。

オープニングの前に披露された最初の演目は「一人角力」(愛媛県今治市)。力士が見えない稲の精霊と三本勝負で相撲を取り、稲の精霊が2勝1敗で勝ち越し、豊作が約束されました。力士の激しい息遣いや行司の掛け声が会場に響き、力強い幕開けとなりました。

オープニングでは、この日の出演者がまつりのテーマ曲『曼陀羅21』に合わせて登場。続いて登場したのが「田子神楽」(青森県田子町)。30年ほど前から女性の参加が始まり、今や伝承者の主役は女性たちに。「鶏舞」や「盆舞」を、五拍子といわれる勢いのある囃子の音色に合わせて見事に演じました。続く「御諏訪太鼓」(長野県岡谷市)は、武田信玄の時代の御諏訪太鼓の編成を参考とし、いろいろな種類の太鼓を複数の人で打つ組太鼓による迫力のあるパフォーマンスを披露。打楽器だけでは思えない迫力ある音が会場に広がりました。

「高田神社横野獅子舞」(岡山県津山市)は、蚊帳の中に大勢が入る「ムカデ獅子」といわれる型で、全国でも珍しい雄と雌2頭の大獅子が対峙。両獅子が笛や太鼓の音に目を覚まし、やがて生けるがごとく睨み合い、最後、継ぎ獅子の

如く立ち上がり雌雄双方が噛み合いました。続いて登場の「座喜味棒術」(沖縄県読谷村)は、地域の棒術団体と比べて演武が圧倒的に「戦闘的」なのが特徴。武術としての技術も極めて高く、また衣装も煌びやかで、その動きに目を奪われました。

第2部は古典芸能からスタート。今回は、宮城県名取市を舞台とする復曲能『名取ノ老女』が武田孝史さん、宝生和英さんらによって演じられました。鎮魂と未来への希望を描き、復興への「息吹」を感じさせてくれました。

続いて登場したのは「今寺面浮立」(佐賀県嬉野市)。鬼の面を着け、煌びやかで重厚な衣装を纏い、「ジャグマ」と呼ばれる麻や馬の毛でつくられたたて髪をなびかせ、男衆と女衆が調和した見事な演舞が披露されました。「伊賀和志神楽」(広島県三次市)は数ある神楽の中でも、衣装の煌びやかさ、誇張的な表情の面などが特徴で、今回は「塵倫」(じんりん)を披露。不思議な霊力のある弓矢で無敵の鬼に立ち向かった戦いを表現しました。

続いて沖縄県沖縄市から「エイサー」が登場。数あるエイサー団体の中から、今回出演したのは10~20歳代の若者を中心とする男女混成のグループ。演者同士が踊りながら交差し、さまざまな形へ大胆に変化する太鼓踊りは、多くの観客の皆様を心を打ちました。最後に登場した「秋田竿燈まつり」(秋田県秋田市)は、竿燈を操る差し手の巧みなバランスで妙技を競い合い、舞台上はもちろん、オーケストラピットも活用したダイナミックな演目に、会場からは何度も大きな歓声が上がりました。

写真：第23回地域伝統芸能まつりのステージから
左：伊賀和志神楽(広島県三次市)
右：秋田竿燈まつり(秋田県秋田市)

- 第23回地域伝統芸能まつり
- [会期] 2023年2月19日(日)
- [会場] NHKホール(東京都渋谷区)
- [主催] 地域伝統芸能まつり実行委員会、一般財団法人地域創造
- [実行委員] 鎌田東二、香山充弘、熊埜御堂朋子、小松和彦、下重暁子、田村孝子、内藤尚志、山本信一郎、山本容子(50音順、敬称略)
- [後援] 総務省、文化庁、観光庁、NHK
- [協力] 名鉄観光サービス株式会社
- ◎演目・出演自治体
- 一人角力(愛媛県今治市)
- 田子神楽(青森県田子町)
- 御諏訪太鼓(長野県岡谷市)
- 高田神社横野獅子舞(岡山県津山市)
- 座喜味棒術(沖縄県読谷村)
- 復曲能『名取ノ老女』(短縮版)
出演：武田孝史、宝生和英ほか
- 今寺面浮立(佐賀県嬉野市)
- 伊賀和志神楽(広島県三次市)
- エイサー(沖縄県沖縄市)
- 秋田竿燈まつり(秋田県秋田市)

●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.11掲載について
地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。(公社)全日本郷土芸能協会常務理事、縦系横系合同会社代表、東京鹿踊代表の小岩秀太郎氏にご寄稿いただきました(3月27日更新)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column11.html>

◎問い合わせ
芸術環境部 藤原
Tel. 03-5573-4183



財団からのお知らせ

●リージョナルシアター事業

- 令和4年度参加団体/派遣アーティスト
- 山形県鶴岡市(タクトつるおか共同企業体/福田修志)
- 山形県酒田市(酒田市/田上豊)
- 福島県白河市(NPO法人カルチャーネットワーク/多田淳之介)
- 横浜市(かんないアート&メディアパートナーズ/福田修志)
- 静岡県島田市(島田市/有門正太郎)
- 大阪府泉大津市(泉大津市/ごまのはえ)
- 徳島県((公財)徳島県文化振興財団/有門正太郎)
- アドバイザー
- 内藤裕敬(南河内万歳一座座長、劇作家・演出家)
- 岩崎正裕(劇団太陽族代表、劇作家・演出家)
- 問い合わせ
芸術環境部 演劇担当
Tel. 03-5573-4124

●邦楽活性化事業

- 令和4年度実施団体(派遣演奏家/日程)
- 秋田県大館市(藤重奈那子/1月19日～21日)
- 茨城県銚田市(藤重奈那子/12月8日～10日)
- 埼玉県上里町(藤高りえ子、簗田弘大、石田真奈美/1月26日～28日)
- ※令和2年度からの延期
- 東京都練馬区(棚原健太/2月2日～4日)
- 神奈川県座間市(川田健太/2月21日～23日)
- 新潟県魚沼市(川田健太/11月24日～26日)
- 富山県黒部市(棚原健太/1月26日～28日)
- 和歌山県上富田町(本間貴士、多田彩子、澄川武史/11月10日～12日)
- ※令和3年度からの延期
- 問い合わせ
芸術環境部 邦楽担当
Tel. 03-5573-4069

●令和4年度「リージョナルシアター事業」報告

演出家等を公共ホールに派遣し、アウトリーチやワークショップを実施するリージョナルシアター事業。令和4年度は7団体が参加し、派遣アーティストとホール担当者が対話を重ねながら企画した事業を実施しました。

山形県鶴岡市では、演劇事業は初めての取り組みで、演劇の手法を使って新たなコミュニティづくりを目指して実施しました。小学校でのアウトリーチ、市内企業の若手職員の交流を目的としたワークショップ、建築としてのホールに着目した小学生から高校生までを対象にした宝探しワークショップなど、さまざまな対象に対して実施しました。演劇を通してこれまで関わりのなかった人々と出会ったことで、市民やまちのさまざまな可能性を発見することができ、今後のホール運営に何が必要かを改めて考えるよい機会となったようで、今後のチャレンジが楽しみになりました。

福島県白河市では、地域で高校生の居場所づくり活動の支援などを行っている、「コミュニティ・カフェ EMANON」と連携して「演出家と俳優と高校生が演劇で遊びたおす会」を実施しました。事前の打ち合わせで、「高校生たちが、自分のことや家庭に関する悩みを話せるようになるまでお互い打ち解けるのには、なかなか時間が掛かってし

まう」という課題が聞かれたことから、「本気でおまごとする」というプログラムを実施。架空の「何か問題を抱えた家族」を自分たちで筋書きを考えながら演じることで、自分のこと、家族のことについて自然と話すことができる場となり、公共ホールと地域の拠点となる場所が連携して取り組むことで起こる可能性を見つけることができました。

当事業では、派遣アーティストと共に多様なプログラムを実施することを通じて、ホールや地域の抱える課題と向き合い、地域の魅力や資源を発見することができます。令和6年度の参加団体の募集については、後日詳細をお知らせいたします。多くのご応募をお待ちしております。



コミュニティ・カフェEMANONでのワークショップの様子

●令和4年度「公共ホール邦楽活性化事業」報告

地域創造が市町村等と共催し、邦楽分野のアクティビティとホールプログラムを実施する「公共ホール邦楽活性化事業」。今年度から新たに登録演奏家の派遣が始まり、オーディションにより決定した演奏家3名を中心に8地域での実施となりました(うち2地域は新型コロナウイルス感染症により延期した地域のため、すでに決定していた演奏家を派遣)。今号では、大館市(1月19日～21日)の模様をご紹介します。

大館市は秋田県の北部に位置し、四方を山に囲まれた盆地で、市の中央部を秋田三大河川である米代川が流れる自然豊かな地域です。今回のアクティビティは、邦楽に馴染みのない子どもたちに生の演奏に触れる機会を提供することで、邦楽に興味や関心をもってもらうことを目的に、市内の小学校4校で実施しました。

演奏は、藤重奈那子さん(登録演奏家/箏・三絃・十七絃)、町田夢子さん(箏・三絃)、中島孔山さん(尺八)の3名。アクティビティでは、「口ずさめる 和楽器の音」をテーマに、演奏を聴くだ

けでなく、邦楽における唱歌を用いて「コロリン」、「シャチャテン」などのフレーズと一緒に口ずさむアクティビティを実施。楽器の音を集中して聴き、それぞれのイメージで口ずさむ子どもたちはとても楽しそうでした。ホールプログラムでは、新春の慶びを「やらやらめでたや」(「尾上の松」の歌詞)というコンサートタイトルに込めて、大館の人々に和楽器の音色を届けました。



大館市立釈迦内小学校でのアウトリーチの様子

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和4年度「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」報告

コンテンポラリーダンスのアーティストと公共ホールが共同で地域やホールの特性を生かした企画を実施する「ダン活」。今年度は、A：地域交流プログラムを4地域、B：市民参加作品創作プログラムを5地域、C：公演プログラムを1地域の計10地域で実施しました。

Aプログラムでは初めてダンスのアウトリーチに取り組む地域が多く、小中学校のほか、不登校の児童が通う適応指導教室、認定こども園等でワークショップを行いました。愛知県西尾市では、来日直後などで日本語習得のサポートが必要な子どもたちが通う日本語初期指導教室で実施。動きのまねっこや物になりきるなど遊びの延長から始めて身体表現に取り組むことで、異なる言語を話す子どもたち同士に、自然と身体を使った新しいコミュニケーションが生まれていました。

Bプログラムでは、地域の歴史、参加者の記憶や思いから作品づくりを行い、参加者同士の交流が生まれるなど、今その地域でしかできない公演をつくり上げました。

Cプログラムを実施した大阪府堺市では、アーティスト自身の子育ての体験をテーマにしたレパートリー作品を上演しました。上演後、コンテンポラリーダンスの鑑賞体験を深めるため、トーク

ゲストと観客が作品から感じたことを共有するアフタートークも行いました。作品に対して共感したことや、すぐには言葉にできないといった率直な感想があり、初めてダンス公演を観た観客にもコンテンポラリーダンスの魅力を届けることができました。また、ダンス公演で利用されていなかった大スタジオに客席を組んで空間づくりを行い、施設活用の可能性が広がる機会にもなりました。

この事業では実施団体が地域のニーズを探りながら、ダンス事業を通じた地域活性化に取り組んでいます。なお、来年度の実施団体募集については、次号および当財団ホームページでお知らせします。



日本語初期指導教室カラフルでのアウトリーチ
(Aプログラム・愛知県西尾市/アーティスト：中村蓉)

●公共ホール現代ダンス活性化事業

◎令和4年度実施団体/アーティスト

[Aプログラム]

北海道大空町(中村蓉)、愛知県西尾市(中村蓉)、広島県東広島市(マニシア)、鹿児島県与論町(長井江里奈)

[Bプログラム]

岩手県宮古市(北尾亘)、神奈川県茅ヶ崎市(北尾亘)、愛知県小牧市(康本雅子)、大阪府泉大津市(田村一行)、熊本県天草市(藤田善宏)、沖縄県浦添市(マニシア)※中止

[Cプログラム]

大阪府堺市(康本雅子)

◎問い合わせ

芸術環境部 ダンス担当

Tel. 03-5573-4077

●令和4年度「公立美術館出前(オーダーメイド)型ゼミ」

●酒田市美術館

第1回(8月17日) 講師：熊谷淳一(株式会社ノイエ代表取締役)

第2回(10月7日) 講師：大澤夏美(ミュージアムグッズ愛好家)

●長崎県美術館(3月14日)

講師：佐々木亨(北海道大学大学院文学研究院教授)、山出淳也(Yamaide Art Office株式会社代表取締役)

◎問い合わせ

総務部 高野 Tel. 03-5573-4184

●令和4年度「公立美術館出前(オーダーメイド)型研修事業」開催報告

この事業では、美術館のマネジメントに関する研修会を、地域創造と申請館の共催で2年間にわたって実施しています。研修テーマを申請館が希望する内容に沿って組み立てる「オーダーメイド型」で実施しているのが特徴です。今年度は酒田市美術館(山形県)と長崎県美術館で開催しました。

酒田市美術館では2回のゼミを実施。1回目は「アフターコロナの集客方法/集客できるチラシ、SNSの活用法」をテーマに、有効な広報で来館者に展示の魅力、館の魅力を伝えることができるよう、職員の「伝える力」「伝える技術」を高めることを目的に開催しました。経営コンサルタントの熊谷淳一氏を講師に招き、集客の仕組みやデザインの基本的な考え方を学んだ後、SNSも含めたメディアミックスで館の魅力を発信する方法を考えるグループワークや、魅力的なチラシをつくるワークショップを行いました。

2回目は「コレクションの活用法/ミュー

ジウムグッズの可能性」をテーマに、ミュージアムグッズで自館のコレクションの魅力を伝える方法を学ぶため、ミュージアムグッズ愛好家として知られる大澤夏美氏に全国の面白いミュージアムグッズのほか、地域住民や地元企業とコラボしたミュージアムショップの事例もご紹介いただきました。また、あえて違う施設の職員を集めたグループで、共同してグッズを開発するというワークショップも行い、複数館だからこそできる興味深いアイデアも披露されました。

長崎県美術館では、「来館者の裾野を広げる事業展開の評価方法と地域振興について考える」をテーマに開催。北海道大学大学院文学研究院の佐々木亨教授に博物館経営や来館者マーケティングの観点から、来館者の裾野を広げるための施策も含めた事業評価の方法についてご講義をいただきました。また実践例として、地域振興とアートという観点から大分県別府市のアートプロ

ジェクト「BEPPU PROJECT」の活動を、総合プロデューサーである山出淳也氏にご紹介いただき、創造的事業で地域の連携を深めたり、地域の魅力を発掘・発信したりできることを示していただきました。

このように当事業では、地域の特色や現在抱えている課題に沿って研修を行っています。毎年10月末頃に募集をしていますので、ご興味のある館はぜひ参加をご検討ください。



研修会の様子(酒田市美術館「コレクションの活用法/ミュージアムグッズの可能性」)

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業(予定)です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 矢嶋

●2023年6月号情報締切
4月24日(月)

●2023年6月号掲載対象情報
2023年6月～8月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

本郷新記念札幌彫刻美術館
〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目
Tel. 011-642-5709 岩崎直人
<http://www.hongoshin-smos.jp/>

New Eyes 視線のはなし

今日的なテーマで独特な思考と際立つ表現の美術家を紹介するシリーズ展。5年ぶり4回目となる今回は「視線」をテーマに、札幌出身や北海道をベースに活動する絵画や彫刻の5名の作家(国松紗智子、小林知世、野澤桐子、岩永啓司、佐藤一明)を取り上げる。世界的パンデミックの拡大を受けて疎遠となった、視線の届く範囲でのコミュニケーションのあり方について再考する契機にも繋がる内容になっている。

[日程] 2022年12月24日～4月16日
[会場] 本郷新記念札幌彫刻美術館

●青森県十和田市

十和田市現代美術館
〒034-0082 十和田市西二番町10-9
Tel. 0176-20-1127 見留さやか
<https://towadaartcenter.com/>

百瀬文 口を寄せる

映像やパフォーマンスなどさまざまな技法を用い、セクシュアリティやジェンダーへの問題を追究する美術家・百瀬文による個展。女性声優をテーマにした新作サウンド・インスタレーションや、性別や世代の異なる他者との関係と、その背後にある見えない存在や抑圧が映し出された作品を展覧する。タイトルの「口を寄せる」は、他者に寄り添う動作を連想させるが、「声」がさまざまな身体を行き来していく様子にも繋がる。

[日程] 2022年12月10日～6月4日
[会場] 十和田市現代美術館

●秋田県秋田市

秋田県立美術館
〒010-0001 秋田市中通1-4-2
Tel. 018-853-8686 佐々木佳苗
<https://www.akita-museum-of-art.jp>

藤田嗣治が愛したものたち

生涯、さまざまなものを収集し、愛着をもった品々を手元に置いてきた画家・藤田嗣治(1886～1968)。本展では、藤田が中南米から北米を歴訪した約2年間の旅行で入手し、アトリエに飾っていた収集品や、藤田が心を寄せたものをモチーフとした作品、また秋田市の資産家・平野政吉に譲渡された藤田の愛蔵品を展示。作品や収集品を通して、藤田が愛したのものたちへの想い、あたたかな眼差しを感じることができる。

[日程] 1月28日～4月16日
[会場] 秋田県立美術館



藤田嗣治 中南米での収集品(公益財団法人平野政吉美術財団蔵)

●山形県酒田市

酒田市美術館
〒998-0055 酒田市飯森山3-17-95
Tel. 0234-31-0095 武内治子
<https://www.sakata-art-museum.jp/>

心に山ありて幸いなり 山岳写真家 白籬史朗展

白籬史朗(1933～2019)は、父が旧八幡町(現酒田市)出身であったことから、酒田近郊の鳥海山を「父の山」と呼んで足繁く通い、多くの写真を撮った。本展は没後初となる回顧展として、世界の名峰や富士山や鳥海山などの日本の名峰を中心に約80点展示し、白籬芸術の全貌に迫る。白籬の写真をプリントしたT

シャツや水筒などの限定オリジナルグッズも制作・販売。

[日程] 4月29日～6月25日
[会場] 酒田市美術館



《夏来る(鳥海山御浜)》 ©白籬史朗

関東

●茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8
Tel. 029-227-8111 後藤桜子
<https://www.arttowermito.or.jp/>

ケアリング/マザーフード: 「母」から「他者」のケアを考える 現代美術

人はさまざまな場面でケアを受け取り、またケアをするが、生産性や合理性を追求する近代社会の形成においてケアの役割とその担い手の存在は長く周縁化され、あたかも「誰か」の本質的な仕事のように自然化、不可視化され、あるいは自己責任化されている。その「誰か」とはどのような「人間」であり、どのような「つながり」のなかにあるのか、15組による現代美術作品を手掛かりに、ケアを「ひとり」から「つながり」へとひろくことを試みる。

[日程] 2月18日～5月7日
[会場] 水戸芸術館現代美術ギャラリー

●茨城県北茨城市

茨城県天心記念五浦美術館
〒319-1703 北茨城市大津町椿2083
Tel. 0293-46-5311 井野功一
<https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

旅するチバラキ ～連作《水郷めぐり》の全貌～

大正6(1917)年に4人の日本画家(飛田周山、水上泰生、山内多門、勝田蕉琴)が利根川流域から茨城県南部を旅して描いた連作《水郷めぐり》。画家たちが各所で写生し、幅六尺前後の横長の作品に仕上げた連作31図を、およそ100年ぶりに一堂に公開する。現在では失われてしまった100年前の自然豊かな茨城と千葉の風景を、旅情とともに楽しむことができる。

[日程] 2月10日～4月23日

[会場] 茨城県天心記念五浦美術館

●栃木県佐野市

佐野市立吉澤記念美術館
〒327-0501 佐野市葛生東1-14-30

Tel. 0283-86-2008 未武さとみ
<https://www.city.sano.lg.jp/museum/>

そっとひらいてみれば

一屏風と本でたのしむ絵一

大きさや見る人との距離も対照的な一方、「ひらくと絵が現れる」という共通点がある屏風と本。本展では2つの形式を比べながら、見る人がどのように鑑賞したか、生活の中でどのように親しまれてきたか、絵の中に描かれた屏風や、本に押された印・書き込みなどの痕跡から具体的に紹介する。当地で実際に親しまれた江戸～近代の作品を中心に構成し、屏風と本それぞれの魅力を楽しめる。

[日程] 前期(江戸時代):1月21日～3月5日、後期(幕末～近代):3月18日～5月7日

[会場] 佐野市立吉澤記念美術館

●東京都文京区

文京アカデミー
〒112-0003 文京区春日1-16-21
Tel. 03-5803-1103 中根文
<https://www.b-academy.jp/hall/>

文の京リーディングドラマ 文豪たちのことば ～文学作品×朗読×演劇～

太宰治、夏目漱石、泉鏡花にゆかりのある県出身の3人の演出家が文人たちの作品をリーディングドラマにする、多くの文人が暮らしたまち・文京区ならではのオリジナル企画。山本卓卓(範宙遊泳)は太宰治『富嶽百景』、田上豊(田上パル)は夏目漱石『三四郎』、島貴之(Potluck Theater)は泉鏡花『露宿』をそれぞれ演出。文豪たちの珠玉の言葉を、朗読と演劇の手法で届ける。

[日程] 4月15日・16日、5月6日・7日

[会場] 文京シビックホール

●東京都世田谷区

世田谷美術館
〒157-0075 世田谷区砧公園1-2

Tel. 03-3415-6011 東谷千恵子
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

わたしたちは生きている!

セタビの森の動物たち

世田谷美術館の豊富なコレクションから、古今東西さまざまな手法で表現された動物の作品を、約110点取り上げる展覧会。展覧会をより楽しむための無料リーフレット「セタビの森の歩き方」が配布され、章解説や作品に登場する動物紹介をはじめ、QRコードで展示作品の関連動画にアクセスできる。身近な動物から想像上の動物まで、100種以上登場する動物を探しながら、不思議な森をさまよう体験ができる。

[日程] 2月18日～4月9日

[会場] 世田谷美術館

●東京都町田市

町田市立国際版画美術館
〒194-0013 町田市原町田4-28-1
Tel. 042-726-2771 藤村拓也

<http://hanga-museum.jp/>

自然という書物 15～19世紀 のナチュラルヒストリー&アート

15世紀から19世紀までの西洋のナチュラルヒストリー(自然誌/博物学)とアート(美術/技芸)の繋がりに注目した展覧会。言葉と絵によって描写された自然の似姿の普及には、活字や版画などの印刷技術が大きな役割を果たし、美術の表現手法が自然の図解に用いられてきた。さまざまな手法で西洋の紙上に築かれてきた自然の姿・形のピオトープ(生息空間)ともいべき世界を存分に展開する。

[日程] 3月18日～5月21日

[会場] 町田市立国際版画美術館

●神奈川県茅ヶ崎市

茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団
〒253-0053 茅ヶ崎市東海岸北1-4-45

Tel. 0467-88-1177 藤川悠
<https://www.chigasaki-museum.jp/>

渉るあいだに佇む

一美術館があるということ

茅ヶ崎に縁のある作家の作品をはじめ、近年では同時代の作家と展覧会を開催し、地域に関連した作品を増やしている茅ヶ崎市美術館。本展では、美術館の建物を生かした大型インスタレーション等の同館のために制作された作品や、萬鉄五郎をはじめとする美術史に残る縁ある作家の作品を展開。開館25周年の節目に、来館者と共に地域に美術館があることについて考える機会にしたいという思いが込められている。

[日程] 4月8日～6月11日

[会場] 茅ヶ崎市美術館

北陸・中部

●富山県富山市

富山市ガラス美術館
〒930-0062 富山市西町5-1
Tel. 076-461-3100 渡部・米田

<https://toyama-glass-art-museum.jp/>

アナザーワールド:不思議でリアルな世界

現在(いま)を生きる7名の作家によるガラス作品約70件を、「アナザーワールド」として紹介する展覧会。見えるものと見えないもの、見慣れたものと見慣れないもの、内側と外側、夢と覚醒など相反する要素をガラスの特性を生かして表現し、「不思議でリアルな世界」へといざなう。出品作家の木下結衣を講師としてガラスビーズでアクセサリ制作するワークショップ(5月21日)も実施。

[日程] 3月4日～6月18日

[会場] 富山市ガラス美術館



高橋まき子《気配の共有》
(2020年/作家蔵)

●石川県金沢市

いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭実行委員会
〒920-0856 金沢市昭和町20-1
Tel. 076-232-8113 杉野大輔
<https://www.gargan.jp/>

いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭2023

金沢に世界のトップアーティストが集結し、数多くのコンサートが繰り広げられるほか、伝統芸能とのコラボレーションや市民参加の大型コンサートが行われる音楽の祭典。今年のテーマは「東欧に輝く音楽」。海外からは、チェコのヤナーチェク・フィルハーモニー管弦楽団を迎え入れ、東欧にゆかりのある作曲家が手がけた音楽が披露される。

[日程] 4月28日～5月5日

[会場] 石川県立音楽堂、金沢市アートホールほか石川県内各所

●石川県七尾市

石川県七尾美術館

〒926-0855 七尾市小丸山台1-1

Tel. 0767-53-1500 河野喬紀

<https://nanao-art-museum.jp/>

没後30周年記念

彫刻家・田中太郎のあゆみ

七尾駅前の長谷川等伯像「青雲」などを制作した七尾出身の彫刻家・田中太郎(1911~92)の没後30周年記念展。師である平櫛田中との出会いからどのように活動を広げていったのかを概観しつつ、家族や動物などを題材にした具象作品、仏教をテーマにした作品、ユニークな抽象作品など所蔵品から46点を展示し、田中の彫刻家としての「あゆみ」を紹介する。

[日程] 2月25日~4月23日

[会場] 石川県七尾美術館

●長野県長野市

長野市芸術館

〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613

Tel. 026-219-3100 長谷川綾

<https://www.nagano-arts.or.jp/>

水曜ひるまのクラシックリサイタルシリーズ vol.37 鈴木優人 チェンパロ・リサイタル

6年目を迎えるクラシックコンサート企画。4月から12月まで8月を除く毎月、平日昼下りのリサイタルホールで、毎回異なる楽器がフィーチャーされ、誰もが知る名曲のほか、アーティストが考える「長野市・長野の自然をイメージする作品」をプログラム。また各アーティストがお奨めする全国各地のスウィーツもホワイエで提供される。37回目の今回は多彩な活動を繰り広げる鈴木優人が本職ともいえるチェンパロ奏者として登場。バッハや武満徹の名曲を奏でる。

[日程] 4月26日

[会場] 長野市芸術館

●長野県飯田市

オーケストラと友に音楽祭実行委員会事務局

〒395-0051 飯田市高羽町5-5-1

Tel. 0265-23-3552 白井美樹

<https://iida-oketomo.com/>

オーケストラと友に音楽祭2023

飯田市で20年間開催してきた「アフィニス夏の音楽祭」を、より市民を主体とした形にリニューアルしてから今年で15年目。今年も名古屋フィルハーモニー交響楽団とタッグを組み、乳幼児と一緒に楽しめるコンサートや名曲コンサート、地域へ小編成のアンサンブルを出前するコミュニティコンサートなど多彩なプログラムを展開。地元演奏家の養成を目的とした音楽クリニックでは、コースごとに中・高校生から大人まで幅広く受講できる。

[日程] 5月3日~5月6日

[会場] 飯田文化会館ほか

●岐阜県岐阜市

清流の国ぎふ芸術祭Art Award IN THE CUBE 実行委員会事務局

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1(岐阜県文化創造課内)

Tel. 058-272-8378 稲實加織

<https://art-award-gifu.jp/>

清流の国ぎふ芸術祭

Art Award IN THE CUBE 2023 ~「リアル」のゆくえ~

清流の国ぎふ芸術祭の主要企画のひとつとして、2017年より3年に1度開催している公募展。今回は、『「リアル」のゆくえ』をテーマとして丈六サイズ(幅4.8m×奥行4.8m×高さ3.6m)のキューブ空間で制作された作品が展示される。2021年12月に公募を開始し、22年9月の企画書審査を通過した14点の作品が制作され、23年4月の二次審査で大賞などが決定。会期中には、子どもも参加できる入選者によるワーク

ショップも開催される。

[日程] 4月22日~6月18日

[会場] 岐阜県美術館



Art Award IN THE CUBE 2020 御宿至(SOMETHING GREAT ~記憶の風景~)

●愛知県豊田市

豊田市美術館

〒471-0034 豊田市小坂本町8-5-1

Tel. 0565-34-6610 能勢・千葉

<https://www.museum.toyota.aichi.jp/>

ねこのほそ道

現代美術を通して見た“猫的なもの”をテーマとした展覧会。人工的な環境のなかでも決して手なづけられることのない、小さな自然である猫。6人の美術家(泉太郎、大田黒衣美、落合多武、岸本清子、佐々木健、五月女哲平)と1組の建築家(中山英之+砂山太一)による、自由や野生、ユーモア、ナンセンス溢れる、どこか猫のような現代美術を紹介する。

[日程] 2月25日~5月21日

[会場] 豊田市美術館



落合多武《猫彫刻》(2007年/ポリウレタンプラスチック、キーボード/個人蔵)
©Tam Ochiai

●愛知県幸田町

幸田町文化振興協会

〒444-0103 額田郡幸田町大字大草字丸山60

Tel. 0564-63-1111 金澤大介

<https://www.happiness.kota.aichi.jp/hall/>

ハピネス・ヒル ワンコインコンサート Vol.70 深みと温かみのホルンデュオ

クラシックコンサートに気軽に足を運んでもらおうと毎月開催している、チケットレスで予約も不要のワンコインコンサート。誰もが知っている名曲を楽しいトークを交えて奏でる1時間プログラムで、70回目の今回は、2人のホルン奏者(安土真弓、五十畑勉)とピアノによるアンサンブル「The Horn Duo」が登場。深く鳴り響く低音と温かい音が心地良いホルンの魅力をお届けする。

[日程] 4月11日

[会場] 幸田町民会館

近畿

●兵庫県尼崎市

A-LAB

〒660-0805 尼崎市西長洲町2-33-1

Tel. 06-7163-7108 藤平征太

<http://www.ama-a-lab.com/>

第一回白髪一雄現代美術賞受賞者 林葵衣 個展「有り体を積む」

尼崎ゆかりの現代美術画家・白髪一雄にちなみ、若手作家による先駆的な作品の顕彰を目的に令和4年度に創設された「白髪一雄現代美術賞」。第1回の受賞者である林葵衣は、普段の音声や身体のふるまいに独自の形を与え、色彩の残像や音声の保存をテーマに作品を制作している。本展では、京都出身の林が、受賞をきっかけに尼崎をリサーチし、新たに制作に取り組んだ作品を展示する。

[日程] 2月23日~3月31日

[会場] A-LAB

●兵庫県西宮市

兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 西宮市高松町2-22

Tel. 0798-68-0223 大歳麻衣子

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

<https://www1.gcenter-hyogo.jp/>

PAC子どものためのオーケストラ・コンサート

3歳以上の子どもを対象とした春休み恒例のコンサート。人気アニメ『SPY×FAMILY』の主題歌や春の童謡メドレー、春のクラシックの名曲などを兵庫芸術文化センター管弦楽団(PAC)レジデント・コンダクター・岩村力の指揮とお話、PACの演奏でお届けする。また、アコーディオン、クラリネット&サクソ、チューバ、タップダンスの4名で編成された音楽隊「とってんたん」も登場し、コンサートを盛り上げる。

[日程] 4月22日

[会場] 兵庫県立芸術文化センター

●兵庫県三田市

三田市総合文化センター 郷の音ホール

〒669-1531 三田市天神1-3-1

Tel. 079-559-8100 大浦淳子

<https://sanda-bunka.jp/>

第34回シティ・フレッシュコンサート

三田市の音楽文化の創造と音楽活動に関わる人たちの交流と演奏の場の提供を目的に開催されているコンサート。34回目の今回も三田市にゆかりの新人音楽家や三田市近郊の新人音楽家から出演者を公募。ピアノやサクソフォン、メゾソプラノなど新進気鋭の8名の新人音楽家の演奏を楽しむことができる。

[日程] 4月1日

[会場] 三田市総合文化センター 郷の音ホール 小ホール

中国・四国

●島根県松江市

島根県立美術館

〒690-0049 松江市袖師町1-5

Tel. 0852-55-4700 蔦谷典子

<https://www.shimane-art-museum.jp/>

森山大道 光の記憶

少年期を島根県仁摩町宅野(現大田市)で過ごした写真家・森山大道の60年の活動を、「写真」という存在に魅ごとぶつかっていった初期、写真の原点に立ち戻っていく中期、世界中の街を闊歩していく後期の3つの時期に分け、活動の詳細や評価とは切り離し、3つの大きなうねりを通して、森山の写真そのものを真正面からとらえる展覧会。期間中は「美術館キネマ」として、これまでに制作された森山のドキュメンタリー映画が上映される。

[日程] 4月12日～6月26日

[会場] 島根県立美術館

●広島県熊野町

筆の里工房

〒731-4293 安芸郡熊野町中溝5-17-1

Tel. 082-855-3010 吉田拓

<https://fude.or.jp/>

宮廷文化を彩る絵画展

～筆跡がつなぐ歴史と伝統

平安時代以降、宮廷の中心で政治や儀式を執り行ってきた五摂家筆頭・近衛家。その文化財を保存管理している京都・陽明文庫の所蔵作品の中から、筆跡がつかないできた宮廷文化やしきたりを伝える絵画を紹介。雅楽や香道などの伝統文化を体験できるイベントも実施する。

[日程] 4月29日～6月11日

[会場] 筆の里工房

●山口県山口市

山口情報芸術センター[YCAM]

〒753-0075 山口市中国町7-7

Tel. 083-901-2222

<https://www.ycam.jp/>

The Flavour of Power—紛争、政治、倫理、歴史を通して食をどう捉えるか?

インドネシアを拠点に活動する8名の女性アーティスト集団バク

ダパン・フード・スタディ・グループとYCAMによる、食と食にまつわる倫理観をテーマとした展覧会。紛争や政治など一見私たちに身近な食とは縁遠いと感じる要素が、食料品の生産やその消費行動にどのように影響を与えてきたのかを調査し、どのような倫理的価値が介在しているかを作品を通じて問いかける。会期中にはワークショップも多数開催。

[日程] 3月11日～6月25日

[会場] 山口情報芸術センター

[YCAM]



バクダパン・フード・スタディ・グループ
《Please Eat Wildly》

●香川県高松市

香川県

〒760-0030 高松市玉藻町5-5

Tel. 087-822-0247 三好賢子

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/kmuseum/index.html>

弘法大師空海生誕1250年記念特別展「空海—史上最強、讃岐に舞い降りた不滅の巨人」

空海その人のぬくもりを伝える名宝や、弘法大師信仰の広まりのなかで創出・継承されてきた作品、今も香川に残る華麗な密教美術など、国宝10件、重要文化財15件を含む全60件の作品を公開する企画展。空海の生涯と事績を紹介する展示(常設)、空海ゆかりの遍路道や寺社を描いた日本画家・平山郁夫展が同時開催。また写経体験や御詠歌のコンサートなども企画されている。

[日程] 4月22日～5月21日

[会場] 香川県立ミュージアム

九州・沖縄

●熊本市

熊本市現代美術館

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3

Tel. 096-278-7500 佐々木玄太郎

<https://www.camk.jp/>

CAMK コレクション展Vol.7

未来のための記憶庫

展覧会の実施などと並ぶ美術館の重要なミッションのひとつがコレクションに関連した業務。熊本市現代美術館はコレクション収集の方針として、地元ゆかりの作家の作品、自館の企画展で紹介した作品などを掲げている。本展では、20年あまりの活動で蓄積されてきたコレクションを通して文化的記憶をたどるとともに、公立美術館によるパブリックコレクションの意味を確かめ直す。

[日程] 4月29日～6月25日

[会場] 熊本市現代美術館

●大分県日田市

日田市民文化会館「パトリア日田」

〒877-0016 日田市三本松1-8-11

Tel. 0973-25-5000

<https://www.patria-hita.jp/>

パトリア春の室内楽まつり

アンドレアス・ヴィルヴォールは、2001～13年にベルリン放送交響楽団の首席ヴィオラ奏者を務め、ソリストとして世界的に著名なオーケストラとの共演や数々の音楽祭に参加している。そんなヴィルヴォールの来日にあたり、日田出身の宇野健太(チェロ)、古賀美代子(ピアノ)、九州交響楽団の山下大樹(ヴァイオリン)、細川泉(ヴィオラ)と共演し、ブラームスのヴィオラ・ソナタなどでパトリアの春の幕開けを彩る。

[日程] 4月7日

[会場] 日田市民文化会館

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

島根県松江市 島根県民会館 しまね県民オペラ2023 『ラ・ボエーム』



『ラ・ボエーム』
写真提供：しまね文化振興財団

●しまね県民オペラ2023『ラ・ボエーム』
(日本語字幕付きのイタリア語上演)
[主催](公財)しまね文化振興財団(島根県民会館)、島根県、日本海テレビ
[会期]2023年2月25日、26日
[会場]島根県民会館 大ホール
[総合プロデュース・演出]高島勲
[指揮]水戸博之
[キャスト]内田千陽、金山京介、田中俊太郎、栗原剛(以上、松江市出身)、宮地江奈、竹内利樹、水見健一郎、水島正樹、石井基幾
[管弦楽]山陰フィルハーモニー管弦楽団
[コンサートマスター]戸澤哲夫(東京シティフィルコンサートマスター)
[合唱]しまね県民オペラ合唱団、松江プラバ少年少女合唱隊
[装置]坪倉菜水(コクーン設計舎)
[衣裳]桜井久美(アトリエヒノデ)
[合唱指導]高橋泰臣

*1 1986年の松江市総合文化センター(プラパホール)竣工とともに結成された少年少女合唱団。現在約80人が在籍し、高く評価されている。

*2 1973年4月、山陰初のアマチュアオーケストラとして発足。現在、島根県や鳥取県の演奏家約90人が在籍。年に1度の定期演奏会のほか、トヨタコミュニティコンサート、学校への出前演奏会などを展開。

2023年2月25日、島根県民会館で「しまね県民オペラ2023『ラ・ボエーム』」が幕を開けた。2年かけて地域一丸となってつくり上げた本格オペラだ。日生劇場元芸術参与で演出家の高島勲を総合プロデュース・演出に迎え、9人の主要キャストはプロの声楽家(4人が松江市出身)。合唱は公募市民と松江プラバ少年少女合唱隊^(※1)、演奏は気鋭の指揮者・水戸博之のもと山陰フィルハーモニー管弦楽団^(※2)が担い、総勢約150人が出演。特筆すべきは、専門家の指導で市民や地元企業が見事な衣裳と舞台装置を手づくりしたこと、地域オペラの大いなる可能性を提示した。

島根県民会館(指定管理者：しまね文化振興財団)では、これまで『あいと地球と競売人』『ピリブ・イン・ミー』と参加型創作ミュージカルを成功させてきたが、オペラは今回が初めて。山崎晋志文化事業課長は、「ここ10年、大ホールを使った県民参加型創造事業から遠ざかっていたが、当県は中高の合唱部などの活動も盛んで、著名声楽家を数多く輩出していることからオペラに挑戦することにした」と話す。

きっかけは、舞台技術グループのリーダーである小野修平が欧州のオペラ劇場を巡る文化庁海外研修ツアーに参加したことだった。オペラの制作現場をつぶさに視察した小野は、講師を務めていた高島を招き、県内の舞台技術者を対象にしたオペラセミナー(18年4月～19年3月、全3回)を企画する。

それを踏まえ、高島に「地元でオペラ活動をしている声楽家もいるし、地域の資源を生かして自分たちでオペラをつくりたい。地域にさまざまなノウハウを残したい」と相談。高島は、「参加型であっても自己満足で終わらせずに音楽的に高いレベルの公演を目指し、オペラに市民が関わることで地域活性化に繋がるような工夫をしよう」と提案する。

21年度から2年計画で実施することが決まり、21年10月に全国公募による主要キャストのオーディションを実施。「応募者は約60人で、レベルの高い声楽家をキャストिंगできた。山陰フィルはアマチュアだが、オペラを熟知する

東京シティフィルのコンサートマスターに入ってもらった。また、ニッセイオペラでもご一緒してきた旧知の桜井久美さん(舞台衣裳)、蜷川幸雄さんの舞台で知り合った広崎うらんさん(ステージング)に声をかけた。出演する市民のエネルギーは時にプロを超えることもあり、今回はその集中力や熱意で作品レベルが上がった」(高島)。22年6月には公募による45人でしまね県民オペラ合唱団も結成された。

市民ワークショップの経験も多い桜井は、市川猿之助のスーパー歌舞伎や小林幸子の紅白歌合戦の衣裳なども手がけるエキスパート。限られた予算で100数十着の衣裳を準備する必要があったことから、古着の寄付を地域に呼びかけ、市民がリメイクすることを提案した。「米子文化服装専門学校の先生や学生、地元の服飾工房にも協力してもらった。古着から市民が手づくりしたことで温かみと愛着が生まれ、19世紀のカルチュ・ラタンの庶民の衣裳を具現化できたと思う」と話す。

制作過程では、モチベーションを高めるため会館ロビーでファッションショーを企画。また、観客が出来栄を間近で見られるよう、本番の休憩時には衣裳を着けた合唱団がロビーを練り歩き、出演者による大道芸のパフォーマンスも行われた。

舞台美術も写実を目指した高島は、古民家再生なども手がける地元の設計事務所にイメージを伝えて設計を依頼。地元の木工会社と塗装店が協力して制作した。「地域の協力を仰ぎながらのオペラづくりは、草の根的に公演への関心を高め、観客をつくることも大きな目的。また、オペラ制作のノウハウを残すため、舞台監督・助手、照明、音響もしまね文化振興財団のスタッフが担当した」(山崎)

主要キャストによるプレコンサートや高島解説によるレクチャーコンサートなどの関連事業だけでなく、公演2日前にはゲネプロを無料公開し、セットを見学するツアーも行われた。地域ぐるみでオペラに取り組み、舞台と観客の垣根を超えてみんなで楽しむ。その新たな可能性に胸が高まった公演だった。(田中健夫)